

たい肥化促進システムresQ45の使用について

たい肥化施設別の資材散布実例

resQ45の「モーレスキュー」は、肉牛ふんに直接散布する資材です。

投入方法

モーレスキューは空気の少ない環境でも良質たい肥化を促進します

毎回の前処理(水分調整等)時に生ふんに直接散布して、ローダーや攪拌機を使い混合してください。

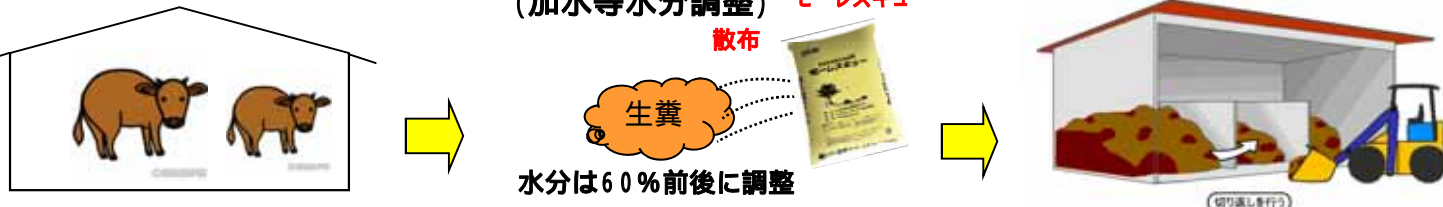
導入作業

除ふん

前処理
(加水等水分調整)

モーレスキュー
散布

堆肥化施設への投入



モーレスキュー

肉牛ふん原料

切返しは必要



使用量

モーレスキュー

肉牛生ふん(敷料・水分調整資材含む)10㎡に対して1袋(9.5kg)を散布します

特別な散布装置は必要ありません。粉状ですので簡単に畜ふんに散布できます

モーレスキュー1種類を使用するだけです。簡単で手間が掛かりません

使用条件

モーレスキューは以下の条件を満たす必要があります。

- 水分調整 : 含水率60%前後が目安 (ふんを握りかたまる程度: 右写真参照)
- 通気 : プロアが無くてもショベルローダーでの切返しでOKです < 堆肥化温度が下がった段階で切返しを実施 >



(水分調整)

堆積方式

生ふんに袋から直接散布



牛舎隣の生糞置き場に直接散布してローダーで攪拌



ローダーのバケットを利用してふんに散布



牛舎内で生糞を通路に移動させ散布した後ローダーで回収



攪拌方式

直線レーン上に乗るふんに直接散布



直線レーンの入り口でローダーを使い直接散布



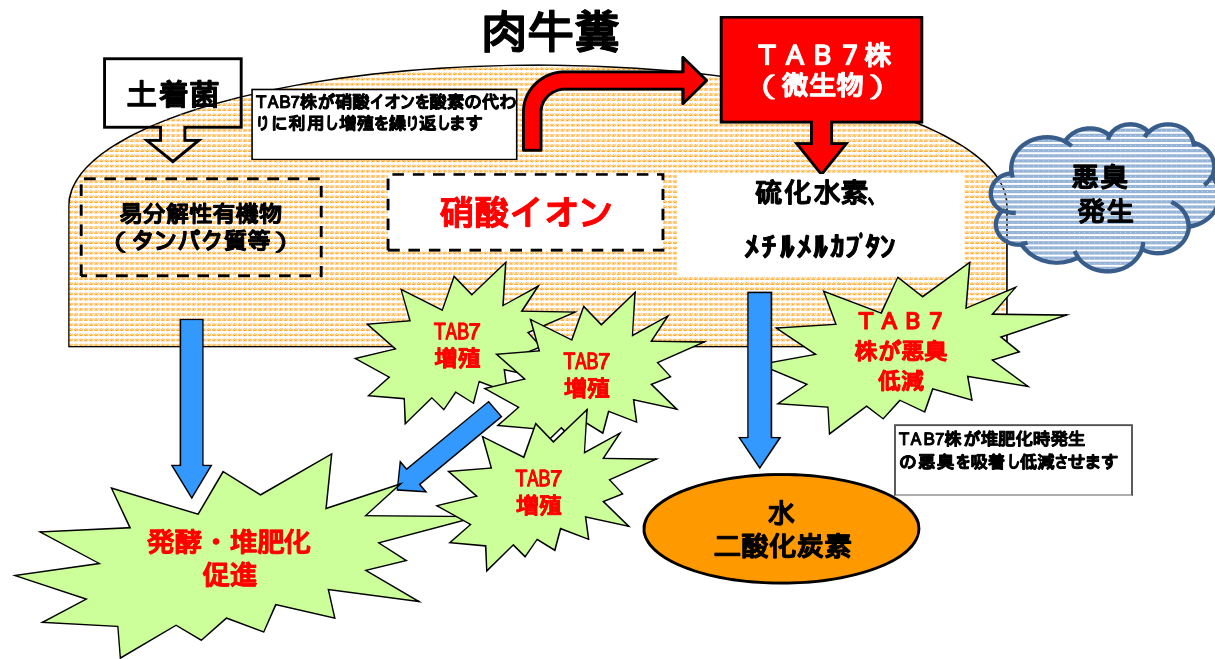
攪拌機の上にある生ふん用のホッパーに資材も同時投入し、レーンに直接散布



モーレスキュー 使用方法



TAB7株の発酵メカニズム



堆肥の品質

	水分	灰分	PH	EC	窒素	リン酸	カリ	C/N比	発芽率
モーレスキュー	42.0	26.1	9.5	6.5	2.5	2.9	6.8	15.3	64
従来方法	46.8	19.0	6.7	7.2	3.0	3.7	4.8	13.7	0

※短期間で発芽率が大幅

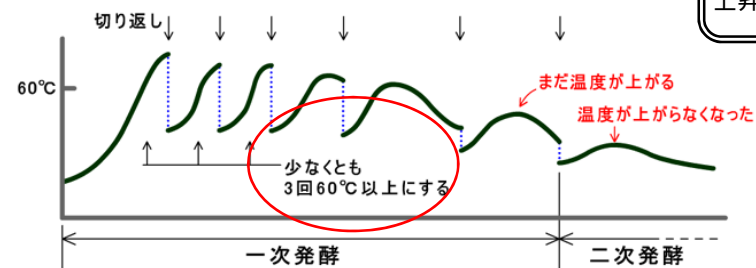
堆肥化開始から40日目の分析数値です

牛糞の堆肥化は120日以上期間が必要ですがモーレスキューで期間が短縮できます！

温度

温度上昇は堆肥化の良し悪しの重要な指標です。温度計を堆肥原料に刺して温度を測みましょう。(左下写真参照)

堆肥化温度が下がったら切返しをしますと再度上昇します



(写真及び図: 畜産環境整備機構資料)



resQ45のコンセプトは recycle、eco、Speed、Quality (resQ)

モーレスキューは肉牛糞に含まれる【硝酸イオン】をTAB7株が空気の少ない環境でも良質たい肥化を促進させるとともに、たい肥化時の臭気を低減します

- 1 送風機(プロア)が無くても切返しだけで良品質堆肥が出来ます！
- 2 切返し時の悪臭を低減します！ 完成たい肥も悪臭なし！
- 3 完成たい肥を畑に散布後、再発酵による悪臭の発生はありません！



モーレスキュー(包装: 9.5kg/袋 粉体)

3つの効果で肉牛農家のお役に立つことができます。